

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	23221003	研究期間	平成23年度～平成25年度
研究課題名	比較可能性がとれた海水中栄養塩濃度の全球分布及び総量に関する研究	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	青山 道夫 (福島大学・環境放射能研究所・特任教授)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は栄養塩標準を用い新規の航海でデータを取得するとともに得られたデータで過去のデータを補正することで、比較可能性を持った正確な全層にわたる栄養塩データセットとそれから得られる物質循環パラメータを作成することを目的としている。この課題は海洋研究の基盤とも言うべきもので国際的にもその意義は大きく、全体としては進展している。</p> <p>本研究では、得られたデータセットによる栄養塩比率の全海洋での分布及び人為起源の二酸化炭素の蓄積量の正確な推定を行うとあるので、その科学的な意義も含めて是非これらの成果を論文として公表し、地球環境変動の研究における科学的な基盤の形成に寄与することを期待する。</p>	

【平成26年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果と比べ、期待した成果が上がらなかった。
B	<p>本研究で掲げた3つの目標「1. 海洋の栄養塩の正確な分布作成」「2. 海洋の窒素、リン、ケイ素の総量の正確な推定」及び「3. 人為起源のCO<sub>2</sub>蓄積量の正確な見積り」のうち、1については期待どおりの成果が得られているが、2、3については期待された成果が上がっていない。</p> <p>具体的には、2についてはGN10 (Global Nutrient Dataset 2010) の不確かさの計算が完了しておらず、さらに3については、データセットの作成にとどまり、解析にまで至っておらず、当初の目的の2つについて期待された成果が上がらなかった。また、発表論文が研究期間中2報にとどまっているので、今後論文発表を積極的に行うことが望まれる。</p>